将来像とその実現に向けた取組み方針

1 低炭素都市の4つの視点

低炭素社会の構築に向けて、「低炭素社会づくり行動計画(平成20年7月閣議決定)」では、集約型都市構造の実現や公共交通機関の利用促進などを重要な構成要素としております。

つまり、公共交通機関を中心とした生活圏の構築に向けて集約型都市構造(コンパクトなまち) に創りかえるといった「まちづくり」を通して、エネルギーや暮らしのあり方を見直し、エネルギー多消費を前提とした生活スタイルではなく、エネルギー消費が少ない中で、市民が安全で快適に暮らせる都市を目指す必要があります。

また、「まちづくり」にあわせ、個々の建物や機器の超省エネ化、自動車の超低燃費化はもとより、エネルギー消費そのものを減らす工夫など「ものづくり^{*1}」の面から、低炭素社会を支える最新環境技術と知恵を取り入れた都市を目指す必要があります。

更に、都市、産業、暮らしを支えるエネルギーについても、貴重な化石燃料の高効率利用を進めるとともに、国内でも持続的に生産できるエネルギーへの転換を図ることが求められています。低炭素ライフスタイル・ビジネススタイルが普及し、市民や事業者にとって「低炭素で快適な暮らし」が当たり前となる社会全体の仕組み(システム)が構築されていくことが必要です。

以上のことを踏まえて、名古屋市が目指す低炭素都市の構築に向け4つの視点から整理しました。

(1)「まちづくり」の視点から

人々が集まって、安心・安全・快適に暮らせ、公共交通機関の利便を増進できるように駅を中心とした生活圏(以下、「駅そば生活圏」)を創生していくことが求められます。それにより公共交通機関、歩行者・自転車へのシフトを促し、自動車に過度に依存しない都市の実現を通じて、交通移動のエネルギー消費の削減を図ることができます。

また、地球温暖化による気温上昇などを緩和して健康・快適に暮らせるよう、自然・風土を生かし、豊かな緑の回廊と水・風の道を再生し、生命を育む都市への転換が求められます。

(2)「ものづくり」の視点から

自然を可能な限り生かした低エネルギー設計による建築とともに、最新技術による設備機器等の超省エネ化、自動車の超低燃費化、次世代型交通システムの普及など、低炭素社会を支える産業界の役割とともに、より少ないエネルギー消費で支え得る都市社会の実現が求められます。

(3)「エネルギー」の視点から

自然エネルギー(太陽光、太陽熱、風力など)への加速度的な転換やエネルギーの面的共同 利用 *2 の拡大、都市排熱などの未利用エネルギーやバイオマスエネルギーなど未利用資源の有効活用により、エネルギーの地産地消の一層の推進が必要です。

^{*1} ものづくり:最新技術を利用した超省エネ機器・超低燃費自動車などのもの(製品)づくりのこと。

^{*2} エネルギーの面的共同利用:分散型電源などを活用し、個々の建物でではなく面的な複数の建物でエネルギーの最適化・ 効率的を図るエネルギー供給システム。

(4)「社会システム」の視点から

我々は、これまで経験したことのない「低炭素社会」への転換が必要となります。このためには、あらゆる場面での環境行動の「見える化」の定着、名古屋市だけにとどまらない広域圏における物質循環やエネルギー供給面などでの連携、さらには、交通手段・エネルギー利用の面での効率性を追求した共同利用の促進といった、二酸化炭素排出量の大幅削減が当たり前となる社会の仕組み(システム)の構築が求められます。このため、国における低炭素社会を支える税制や経済・社会制度の整備と、その制度のもとで低炭素ライフスタイルへと転換を促進させる市民協働パワーが必要です。

視点	内	容
まちづくり	駅そば生活圏の創生 自動車主体から公共交通、徒ま 自然や風土を生かした冷暖房 再生(流域圏連携を含む)	
ものづくり	全ての機器・自動車の 超省エ 自然空調*1で快適に暮らせ 次世代型交通システム*2の ⁵	る建築物の普及
エネルギー	自然エネルギー等の導入(太 エネルギーの 面的共同利用 廃棄物・バイオマス等の未 れ	ŕ
社会システム	社会全体での環境配慮行動の 都市間・伊勢湾流域圏など 広 所有から 共同利用への 転換 低炭素社会を支える 国の税制 市民協働パワーによる 低炭素	域圏連携 の実現 や経済・社会制度 の整備

^{*1} 自然空調:豊富な緑や風の道から運ばれる冷気を効果的に活用したり、建物外部では、緑のカーテン・壁面緑化・屋上緑化などにより、熱を遮断するなど自然を活用する空調をいう。

^{*2} 次世代型交通システム: IMTS(電波磁気誘導式のバスで、専用路では、10 台程度の隊列走行などの無人運転が可能であり、一般道路上では、通常の有人運転が可能とされる)やちょい乗りバス(駅周辺でのちょっとした移動に気軽に乗れる交通機関)などをいう。

2 将来像

名古屋市では、2050年を見据えた大都市としての責務を果たし、快適な低炭素都市を実現するため、低炭素都市の4つの視点を踏まえて、以下のとおり、なごやの将来像を提案する。

(1)総合目標

低炭素で快適な都市 なごや

歩いて暮らせる化石燃料消費の少ないまち 自然豊かで、冷暖房のいらないまち 市民と事業者、行政の協働が創る低炭素なまち

(2)3つの生活と市民協働パワー

低炭素都市の4つの視点(まちづくり、ものづくり、エネルギー、社会システム)を踏まえ、「駅 そば生活」、「風水緑陰生活」、「低炭素「住」生活」とそれを支える「市民協働パワー」を礎とし た生活の将来像を提案します。これらを通じて、総合目標である「低炭素で快適な都市 なごや」 の実現を目指します。

駅そば生活 ~歩いて暮らせる駅そば生活~

住宅・店舗・職場・利便施設が集まる駅そばでの生活圏の創生を通じてエネルギーの効率化 を図り、自動車に過度に依存しない化石燃料消費の少ない都市への転換を目指します。

風水緑陰生活 ~ 身近な自然を享受できる生活~

地形、水系、植生や小川などの自然や風土を生かしたまちづくりや駅そばへの人口の集約・ 人口の減少によって生まれる空間的な余裕を緑地等として活用することにより、「風水緑陰生活」の実現を目指します。

低炭素「住」生活 ~ 自然と超省エネ機器を活用した快適な低エネルギー生活 ~ 低炭素「住」生活の実現を、以下の3つの分野から目指します。

くるま

マイカーに依存しないライフスタイルの定着、くるまを利用する場合でもかしこい使い 方をするなど自動車利用に伴う CO₂を減らすことを目指します。

すまい・しごと

自然や風土を生かしたまちづくりを前提として、太陽光や自然の風を生かした低エネルギー消費の快適な建物等の建築、建築設備としてトップランナーの機器を導入するなど超省エネ化を進めることで、自然空調による快適な暮らしの実現を目指します。

地域エネルギー

自然エネルギーの普及拡大と更なる技術革新、その導入への支援、エネルギーの面的共同利用などエネルギーの地産地消を目指します。

低炭素社会を支える市民協働パワー

「低炭素で快適な都市 なごや」の実現のためには、主体的なそれぞれの市民の協働による パワーが低炭素社会を支えることが必要不可欠です。このような市民パワーは、先に提案した 「駅そば生活」、「風水緑陰生活」、「低炭素「住」生活」の実現への礎となるものです。

「低炭素で快適な都市 なごや」を目指した生活像

市民協働パワーが支える3つの生活像

駅そば生活

歩いて暮らせる 駅そば生活

風水緑陰生活

身近な自然を 享受できる生活

低炭素「住」生活

自然と超省エネ機器を活用した快適低エネルギー生活

- ・〈るま
- ・すまい・しごと
- ・地域エネルギー

名古屋市において、低炭素都市の構築の目指す必要性とその実現のための将来の 生活像を図示してみました。

תמם



低炭素都市の構築の必要性と将来の生活像

背景·課題 解決の方向性 低炭素都市の生活 【世界】 駅そば生活 · 気候変動の深刻化の懸念 ・化石燃料枯渇の懸念 低炭素で快適な都市 なごや の実現に向けた4つの視点 風水緑陰生活 【名古屋】 まちづくり ・市街地の拡散 ものづくり ・高い車依存率 低炭素「住」生活 エネルギー ・緑の減少、水循環機能の低下 社会システム ・ヒートアイランド現象の顕在化 ・エネルギー利用の効率化促進 ・市民参加の一層の拡充 市民協働パワー 名古屋市の取り組み実績の一部 2001年 第1次名古屋市地球温暖化防止行動計画の公表、市民・事業者の協働による20万tのごみ減量目標達成 2002年 藤前干潟がラムサール条約に登録 2003年 自治体環境グランプリ「グランプリ」「環境大臣賞」同時受賞 2004年 「なごやエコキッズ」「なごやスクール ISO」の取り組み開始 CASBEE 名古屋開始 2005年 なごや環境大学の開講 2006年 第2次名古屋市地球温暖化防止行動計画の改定 2007年 放置自転車を活用した名古屋のコミュニティサイクル「名チャリ」の社会実験開始 2008 年 バイオマスタウン構想の公表、名古屋市第4次一般廃棄物処理基本計画の策定 「生物多様性条約第10回締約国会議」2010年に名古屋での開催が決定 緑化地域制度開始 2009年 全市レジ袋有料化(全国最大規模) 「水の環復活 2050 なごや戦略」の公表

また、「駅そば生活」など「低炭素で快適な都市 なごや」の舞台となる名古屋の都市構造イメージは以下のとおりです。

「低炭素で快適な都市 なごや」の都市構造イメージ 都心から周辺部にかけての再生イメージ

